

我われも恋こう

I'm falling in love with you,
too.



「私も好きです」

我も恋う。ワレモコウは吾亦紅または吾木香とも書くのですが、その音が「我も恋う」と聞こえるので、ちよっぴり意味深な歌にも詠まれます。日本語は掛詞かけことばといって、このようにある音節にいくつかの意味を持たせてメッセージを重ねた和歌や俳句などが多くあります。美しく、賢い言語です。

ワレモコウの名前の由来はいくつかあり、「吾亦紅」と書くのは昔、神様が秋の野原で赤い花が見つからずに困っていた時に

「私では駄目ですか」と

吾亦紅が、勇気を出して申し出たというお話がもたっています。

またワレモコウの根は薬としても使われていました。

木香もっこうという薬草に似ていることから「吾木香」と呼ばれたとも言われ、源氏物語にも匂宮におのみやが、香りが好きで庭に植えたという逸話が出てきます。

他にも、われもこう、私もこうありたい。

我もえう、私も望んでいる。

この花の名前には色々な言い伝えがありますが、その健気けなげな佇まいからか控えめながらも、芯の強さを感じるような物語が多いですね。

ワレモコウは静かでどこか懐かしく、晩夏に色を添えてくれます。秋の気配を運んでくれる、愛しい花です。

（源氏物語 第四十二帖 「匂宮」）

花物語

比田井宗玉

